



暴力をふるったり、ナイフで人を傷つけたりなど、最近子どもたちの将来を心配せずにはいられない事件が目立ちます。

「次代を担う子どもたちが心豊かな人間に成長してほしい」それは家族だけでなく、学校、地域、そして社会全体の願いです。

この問題については、家庭や学校だけでなく、私たちみんなが一緒に考え、そして取り組んでいかなければなりません。

子どもの教育を考える



中学生の規範意識

「とても悪い」「かなり悪い」と思う割合(%)

項目	1983年	1995年
放置してある他人の自転車に乗る	86.8	77.3
自室でたばこを吸う	79.7	65.4
他人の傘を無断でさして帰る	82.3	74.4
おつかいにミニバイクを運転していく	74.6	56.9
他人の体育館ばきを無断で使用する	76.3	54.0
かるくパーマをかける	63.7	47.6
友達の優勝を祝ってお酒を飲む	59.9	50.8
授業のとき、漫画を読む	60.8	53.4
きまりより少し太いズボンで登校する	49.8	32.6
バスや電車で子ども料金を乗る	25.6	16.2
自転車の二人乗りをする	14.8	6.7

資料：(株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育研究所
「モノグラフ」vol.51「中学生は変わったのか～1983年との比較」

最近の問題行動の傾向

最近、子どもたちにまつわるさまざまな事件が、深刻な社会問題になっていきます。殺人や傷害などの凶悪・粗暴な非行が増加する一方、依然として児童・生徒のいじめなどが後を絶ちません。ここ数年、少年人口が減っているにもかかわらず、こうした問題行動によって補導される人数は年々増えてきています。

最近、遊ぶ金欲しさが動機の一つで、子どもたちがまわっているさまざまな事件が、深刻な社会問題になっていきます。殺人や傷害などの凶悪・粗暴な非行が増加する一方、依然として児童・生徒のいじめなどが後を絶ちません。ここ数年、少年人口が減っているにもかかわらず、こうした問題行動によって補導される人数は年々増えてきています。

非行や、出版物、テレビなどのマスメディアや友人にひきずられる模倣型の非行が増えており、そうした非行に対する抵抗感や罪悪感も薄れている傾向にあります。

子どもたちの非行の増加の背景として指摘されるのは、子どもたちのモラルの低下や心の問題です。左の表でわかるとおり、最近の子どもたちの規範意識は低下しています。